

事業名称	空き家発生予防のための大学生による空き家文化祭運動のモデル化事業
団体名	空き家ワイワイ実行委員会
採択番号	241003
連携先	南あわじ市、神戸新聞社、KDU まちづくり研究会、リタワークス、Newfuzz
事業地域	兵庫県、南あわじ市、神戸市
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家文化祭運動推進、ブランディング検討及び開催準備活動 ・地域空き家文化祭実施運営の試行 ・空き家文化祭普及のためのまちづくりセミナーを開催 ・産官学連携の空き家文化祭運動のモデル化検討
事業の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・地域外の大学生が地域に溶け込み空き家再生に取り組む事業 ・空き家のイメージを変えるブランディングを目的とした事業として、大学生によるアート/音楽/食の地域創生文化祭であることを全面に出した取り組み ・産官学が連携したエリアマネジメントによる空き家対策の為の取り組み ・同様の企画を他地域で展開するための必要なツールをそろえる取り組み
成果	<ol style="list-style-type: none"> 1 産官学連携の統一ブランディング事業としてのとりまとめを実施した 2 南あわじ市福良地区にて空き家を9件、空き地を2件、空き家文化祭において活用し事業を実施し、そのうち、空き家を3件大学生による活用提案実施発表を行った。その活用した空き家文化祭の試行において、2日間で約1000名の来場者に啓蒙実施できた。 3 空き家文化祭の啓蒙セミナーを行い50名の参加があり、その結果を、神戸新聞にて掲載した記事掲載を行った（2025年2月21日全県下） 4 空き家文化祭 運営ホームページの作成 5 空き家文化祭実施モデル啓蒙用の広報映像 6 空き家文化祭の実施運営マニュアルの作成（PDF版）
成果の公表方法	<p>すまいの未来研究機構のホームページで公表（pdf版はダウンロード可）</p> <p>https://www.sumaiken.jp/index.html</p> <p>https://www.sumaiken.jp/uzurock/index.html</p>
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・兵庫県内の各市町の空き家担当者が、空き家対策を、家という個人所有のハードの問題ではなく、産官学の取り組みによるエリアマネジメントの問題である、という認識をもつために、「空き家文化祭」の企画の有用性を啓蒙する今回の事例を説明するようなセミナーの継続開催が必要である。 ・空き家文化祭の立上げには、まずは、市町の空き家対策としての予算計上が必要となる。そのうえで、事業実施にむけて、地域企業との連携が必要であり、協賛企業募集による資金集め手法に工夫と注力が必要となる。 ・空き家文化祭を実行する当該委員会の活動におけるヒトモノカネの継続性の課題に対して、すまいの未来研究機構などの地域のまちづくり支援団体との連携を強化していく。

1. 事業の背景と目的

本事業は、空き家問題の啓発と新たな利活用モデルの創出を目的としている。特定エリア内の改修前の空き家を複数活用し、大学生を主体とした「空き家文化祭」を実施することで、地域の空き家課題に対する関心を高め、持続可能な活用の仕組みを検討する。

関連団体である一般社団法人すまいの未来研究機構は、これまで複数年にわたり空き家の利活用手法やその効果を調査・研究してきた。しかし、空き家を前面に打ち出した従来の取り組みでは、空き家問題に関心のある層にしか届かず、広く社会へ波及させることが困難であった。このため、空き家問題の認知度向上こそが、利活用の促進における重要な課題であると考えた。

この問題が放置されると、空き家の増加が地域全体の衰退を引き起こす可能性がある。一方で、全国には地域資源を活かし、関係人口を増やすことで活性化している地方都市も存在する。そこで、単なる空き家活用の枠を超え、地域住民や若者が主体的に関わる「文化祭」という形態を採用することで、空き家の価値を再認識し、地域の魅力とともに発信する試みを行った。

昨年度の試行では、一戸の空き家を会場に文化祭を開催し、住民や学生、自治体が参加することで、地域との新たな関係性が生まれた。その結果、対象空き家の活用が継続的に模索されるなど、公共性のある文化祭活動が空き家の再評価と地域活性化に寄与する可能性が示された。

本年度は、さらなる発展を図り、一戸の空き家にとどまらず、複数の空き家を活用することで、地域全体の空き家問題へのアプローチを強化する。これにより、地域内の空き家のネットワーク化を促進し、空き家活用の相乗効果を生み出すとともに、より広範なエリアでのまちづくりへとつなげることを目指す。

そのため、本事業では、空き家の存在と地域の魅力を発信することで、空き家問題を「他人事」ではなく「自分事」「自らの地域事」として捉えさせ、関心を持たせることを目的とする。そのために、地域全体を巻き込んだ文化祭を開催し、空き家の新たな活用の可能性を探る。

また、関心の低い層にも広く訴求するため、親しみやすくイメージしやすい「文化祭」や「フェス」という名称を採用した。開催地域としては、南あわじ市福良地区を選定した。この地区は、確立された産業基盤を持ちながらも空き家率が高く、自治体の協力を得られる環境が整っていることが決め手となった。

本事業を通じて、大学生が地域と連携し、空き家文化祭の準備から運営まで主体的に関与することで、地域の空き家活用のモデルケースを確立し、他地域への展開可能性を探る。その活動の継続が、さらに、まちづくり会社の設立、地域内コミュニティの活性化、空き家の活用相談の増加、具体的利活用の推進、新規事業の開業創業、地域特性（食・観光・商業）を生かしたまちの活性化等にも寄与していくことが本事業のねらいとなる。さらに、空き家活用が定住促進や新たなビジネスモデルの構築につながり、地域の活性化に貢献することを目指す。

2. 事業の内容

(1) 事業の概要と手順

事業の概要について、取組フロー図、役割分担表、進捗スケジュールおよび具体的取組概要を以下に記す。

図1 取組フロー図

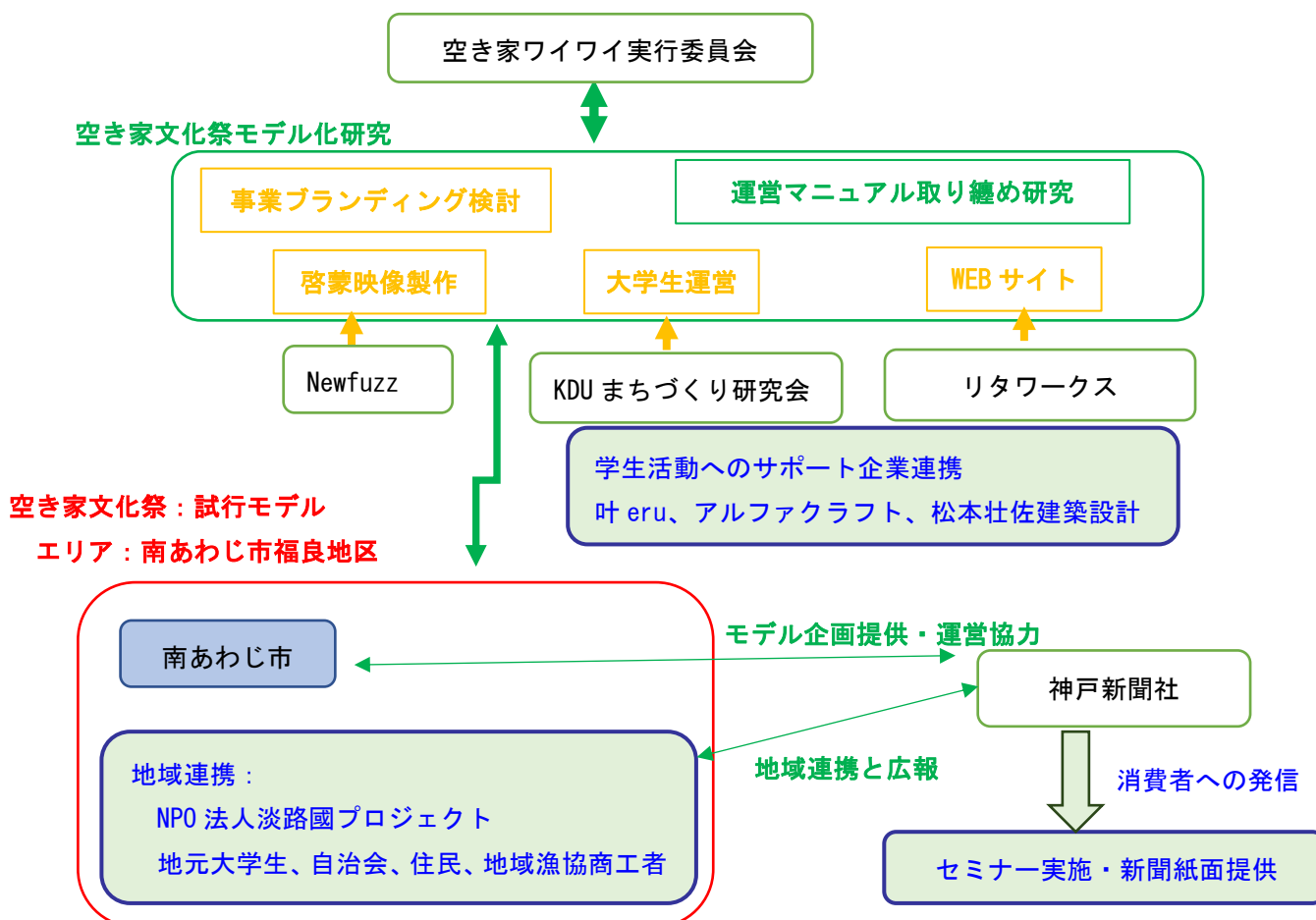


表1 役割分担表

具体的な取組内容	担当団体別の取組内容	担当団体（担当者）
1, 空の家文化祭運動推進と開催準備活動	① 空の家文化祭運動のブランディング検討	空の家ワイワイ実行委員会（谷、高橋、才本、岩切） リタワークス（中川） 神戸新聞社（田中、阿部、鄭） KDU まちづくり研究会（松井、小林、他大学生） Newfuzz（高橋）

	<p>② 自治体や地域との連携ワークショップ</p>	<p>南あわじ市都市政策課（秦課長、清水係長） 神戸新聞社（田中、阿部、鄭） 空き家ワイワイ実行委員会（谷、高橋、才本、岩切）</p>
	<p>③ 大学生と連携協議ワークショップ</p>	<p>KDU まちづくり研究会（松井、小林、他大学生） 叶 eru(高森)、松本壮佐建築設計（松本）、アルファクラフト（濱田）、空き家ワイワイ実行委員会（谷、高橋、才本、岩切）</p>
	<p>④ 空き家文化祭への参加者、出演者募集の広報活動</p>	<p>リタワークス（中川） 南あわじ市都市政策課（秦課長、清水係長） 神戸新聞社（田中、阿部、鄭） KDU まちづくり研究会（松井、小林、他大学生） 空き家ワイワイ実行委員会（谷、高橋、才本、岩切）</p>
<p>2. 地域空き家文化祭実施運営</p>	<p>①地域の各空き家で行われる文化祭（学生文化祭）運営</p>	<p>KDU まちづくり研究会（松井、小林、他大学生） 神戸新聞社（田中、阿部、鄭） 叶 eru(高森)、松本壮佐建築設計（松本）、アルファクラフト（濱田）、空き家ワイワイ実行委員会（谷、高橋、才本、岩切）</p>
	<p>②空き家文化祭集客企画（音楽フェス）運営</p>	<p>KDU まちづくり研究会（松井、小林、他大学生） 神戸新聞社（田中、阿部、鄭） 南あわじ市都市政策課（秦課長、清水係長） 空き家ワイワイ実行委員会（谷、高橋、才本、岩切）</p>
	<p>③大学生実施の空き家文化祭の効果発表会の開催</p>	<p>神戸新聞社（田中、阿部、鄭） KDU まちづくり研究会（松井、小林、他大学生） 南あわじ市都市政策課（秦課長、清水係長） 空き家ワイワイ実行委員会（谷、高橋、才本、岩切）</p>

表3 具体的取組概要

取組内容	実施日	実施場所	結果など
1①空き家文化祭運動のブランディング検討	2024年7月29日	神戸新聞社会議室	5人が参加 空き家文化祭の開催コンセプトの検討
1①空き家文化祭運動のブランディング検討	2024年7月31日	明石市材木町会議室	5人が参加。 空き家文化祭の開催コンセプトの検討
1②自治体や地域との連携ワークショップ	2024年8月1日	神戸市西区会議室	6人が参加 南あわじ市と開催概要協議
1③学生と連携協議ワークショップ	2024年8月8日	神戸駅前ATビル9階	13人が参加 大学生を交えて空き家文化祭についての開催説明会
3①委員会開催によるモデル検討	2024年8月21日	神戸駅前ATビル9階	6人が参加 モデル化が可能な空き家文化祭の実施方法についての検討会議
1③学生と連携協議ワークショップ	2024年8月25日	福良CAP会議室他	17人が参加 福良を街歩きしながら、空き家の状況確認と空き家の選定検討協議
1①空き家文化祭運動のブランディング検討	2024年8月27日	神戸駅前ATビル9階	8人が参加 空き家文化祭の実施企画検討会及び文化祭モデル検討委員会
1②自治体や地域との連携ワークショップ	2024年8月28日	福良CAP会議室	5人が参加 地元NPO団体との面談打合せ実施
1③学生と連携協議ワークショップ	2024年9月9日	福良CAP会議室他	16人が参加 南あわじ市打合せ及び対象空き家の内部確認と企画検討
3①委員会開催によるモデル検討	2024年9月12日	神戸駅前ATビル9階	5人が参加 空き家文化祭の企画設営の流れを検討
1④参加者、出演者募集の広報活動	2024年9月18日	神戸駅前ATビル9階	8人が参加 空き家文化祭の参加者募集検討及び広報サイトの検討
3②事業告知／募集／認知度向上のためのWEBサイト構築作業	2024年9月24日	オンライン会議	8人が参加 空き家文化祭の参加者募集検討及び広報サイトの検討
1②自治体や地域との連携ワークショップ	2024年9月28日	オンライン会議	9人が参加 南あわじ市及び大学生の空き家活用企画の検討会議

1③学生と連携協議ワークショップ	2024年10月1日	神戸駅前ATビル9階	8名が参加 大学生による空き家活用企画の設営準備会議
1④参加者、出演者募集の広報活動	2024年10月2日	神戸駅前ATビル9階	10名が参加 大学生募集方法とステージ出演者募集状況、募集方法の協議
1③学生と連携協議ワークショップ	2024年10月4日	福良CAP会議室他	15名が参加 現地で空き家ブースの設営検討及び作業・調査の実施及びNPO法人淡路国プロジェクト打合せ
1①空き家文化祭運動のブランディング検討	2024年10月5日	オンライン会議	5名が参加 空き家文化祭の企画協議及びパンフレット制作検討会議
3②事業告知／募集／認知度向上のためのWEBサイト構築作業	2024年10月16日	神戸駅前ATビル9階	7名が参加 WEBサイト構成検討及びコンテンツ検討会議及び作業
1③学生と連携協議ワークショップ	2024年10月17日	神戸駅前ATビル9階	9名が参加 大学生による空き家活用企画の設営準備会議
1②自治体や地域との連携ワークショップ	2024年10月18日	福良CAP会議室他	6名が参加 福良商店街及び協力住民に対する空き家文化祭企画説明会
3②事業告知／募集／認知度向上のためのWEBサイト構築作業	2024年10月24日	オンライン会議	9名が参加 空き家文化祭事業広報のためのWEBSITE構成とコンテンツ作成会議
1①空き家文化祭運動のブランディング検討	2024年11月8日	神戸駅前ATビル9階及びオンライン会議	8名が参加 空き家文化祭開催にむけての運営者説明会の実施及び問題点の最終調整会議
3②事業告知／募集／認知度向上のためのWEBサイト構築作業	2024年11月13日	福良CAP会議室他	6名が参加 南あわじ市と現地商店街店舗へのパンフレット配布及び説明実施
2②空き家文化祭集客企画運営	2024年11月15日	福良商店街地域及び福良CAP会議室他	9名が参加 空き家文化祭実施の空き家ブース整備及び清掃活動の実施及びステージ準備の実施
2②空き家文化祭集客企画運営	2024年11月16日	福良商店街地域及び福良CAP会議室他	空き家文化祭実施の空き家ブース整備及び清掃活動の実施及びステージ準備の実施 14時より空き家ワークショップの実施（空き家ブース担当の大学生チーム及び南あわじ市とのセッ

			<p>ション)</p> <p>15時より地元ダンスチームによるダンスパフォーマンスによる空き家文化祭紹介活動実施</p> <p>来場者：100名</p>
2①地域の各空き家で行われる文化祭（学生文化祭）運営	2024年11月17日	福良商店街地域及び福良CAP会議室他	<p>空き家文化祭（うずロックフェス2024 in ふくら）の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生空き家ブース x 3か所 ・連携地元空き家ブース x 9か所 ・ステージイベント x 1か所 <p>すべてをパンフレット配布により回遊し空き家の利活用について啓蒙するイベントを開催</p> <p>来場者：900名</p>
3③空き家文化祭運営モデル啓蒙用の広報映像製作	2024年11月20日	福良CAP会議室他及び神戸駅前ATビル9階	<p>8名が参加</p> <p>協力空き家所有者及び現地団体と空き家文化祭実施後の状況の確認打合せ及び啓蒙用広報映像作成のためのコンテンツ検討会議</p>
3①委員会開催によるモデル検討	2024年11月27日	福良CAP会議室他	<p>7名が参加</p> <p>協力空き家所有者及び現地団体と空き家文化祭実施後の状況の確認打合せ</p>
3①委員会開催によるモデル検討	2024年12月3日	南あわじ市役所及び福良CAP会議室	<p>5名が参加</p> <p>南あわじ市と次年度以降の空き家文化祭の今後の進め方と連携内容のモデル化の検討</p>
3③空き家文化祭運営モデル啓蒙用の広報映像製作	2024年12月5日	神戸市西区会議室	<p>6名が参加</p> <p>空き家文化祭成果内容のとりまとめと映像化検討会議</p>
3①委員会開催によるモデル検討	2024年12月9日	福良地区公民館	<p>25名が参加</p> <p>第2回「世界一の食の島」を先導する食の街区検討委員会にオブザーバー参加する。</p> <p>南あわじ市の今後の空き家まちづくりコンセプトの進め方と空き家文化祭企画の問題点や実施にむけての課題のとりまとめ会議への参加と発表</p>
3①委員会開催によるモデル検討	2024年12月18日	神戸駅前ATビル9階	<p>8名が参加</p> <p>空き家文化祭の運営マニュアル構成検討会議</p>

3③空き家文化祭運営モデル啓蒙用の広報映像製作	2024年12月21日	神戸市西区会議室及びオンライン会議	9名が参加 空き家文化祭成果について参加者に対しての効果ヒアリングととりまとめ映像制作
3①委員会開催によるモデル検討	2025年12月24日	明石市役所	5名が参加 明石市訪問による空き家文化祭の他エリア展開の可能性と問題点についての協議会
3①委員会開催によるモデル検討	2025年1月15日	兵庫県庁	11名が参加 兵庫県住宅政策担当との空き家文化祭活用における検討協議
3①委員会開催によるモデル検討	2025年2月1日	オンライン会議	6名が参加 空き家文化祭の運営マニュアル構成検討会議
2③大学生実施の空き家文化祭の効果発表会の開催及び3①委員会開催によるモデル検討	2025年2月9日	神戸三宮120ワークプレイス	50名が参加 兵庫県住宅政策担当及び市町村の空き家担当者を交えての空き家文化祭の報告及び成果発表会
3①委員会開催によるモデル検討	2025年2月11日	神戸市西区会議室	3名が参加予定 空き家文化祭の運営マニュアル制作
3④その他報告書作成	2025年2月15日	神戸市西区会議室	8名が参加予定 空き家文化祭の運営マニュアル制作および報告書作成
3④その他報告書作成	2025年2月19日	神戸駅前ATビル9階	11名が参加予定 空き家文化祭の運営マニュアル制作、広報映像制作確認作業
2③大学生実施の空き家文化祭の効果発表会の開催	2025年2月21日	神戸新聞 県下版	神戸新聞朝刊県下通し版、5段記事にて告知提供（392,151部、2023年4月ABC部数）
3④その他報告書作成	2025年2月22日	神戸市西区会議室	2名が参加予定 空き家文化祭の運営マニュアル制作、報告書作成
3④その他報告書作成	2025年2月23日	神戸市西区会議室	3名が参加予定 空き家文化祭の運営マニュアル制作、報告書作成
3④その他報告書作成	2025年2月24日	神戸市西区会議室	2名が参加予定 空き家文化祭の運営マニュアル制作、報告書作成

(2) 事業の取組詳細

1. 空き家文化祭運動推進と開催準備活動 (①②③)

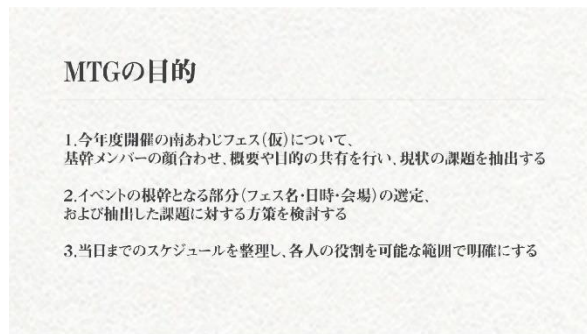
空き家文化祭運動を推進するにあたり、実行委員会と大学生を主体とするブランディング検討及び、自治体や地域団体との協議、大学生が空き家で行う活用提案検討を、以下のとおりのミーティング及び調査研究等を平行して行った。

- ・ 空き家文化祭運動のブランディング検討会 計5回開催 7月29日～11月8日
- ・ 自治体や地域との連携ワークショップ 計5回開催 8月1日～10月18日
- ・ 学生と連携協議ワークショップ 計6回開催 8月8日～10月18日

図2 ブランディング検討の初回



図3 ブランディングミーティング



空き家文化祭の事業企画を検討をすすめるにあたり、今回の企画を統括するブランディングデザインの専門である(株)Newfuzzにて、方向性の検討と、資料関係の準備を事前に行って頂き、大学生をまじえた空き家文化祭運動について方向性の検討と具体的事業の協議をスタートしてもらった。

図3 ブランディング検討事例



協議の中で、「文化祭」は多くの人々が関わったことのある行事であると考えているが、今回のような関係者が多い企画について、世代や地域によっても、「文化祭」イメージそれぞれ異なっていることがわかった。そこで、わかりやすい企画であることを念頭に、空き家文化祭のコンテンツのうちでは、とくに音楽がより幅広い層に遡及できるものではないかと検討をすすめた。

図4 大学生との検討プレゼン

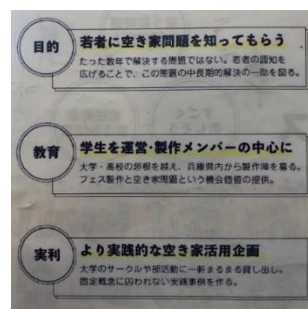


図5 大学生が関わったブランディングイメージの構築プロセス図



空き家文化祭運動の啓蒙のためのブランディング検討会、自治体や大学生と空き家文化祭を開催する理念をまとめるワークショップ MTG、空き家文化祭開催のための広報集客活動の手法検討 MTG を、産官学の関係者数を徐々に拡大しながら実施した。ブランディングについては、そもそも概念の検討から始まり、空き家文化祭とはどうあるべきか、どうすれば、空き家の印象をかえ、産官学一体となった取り組みとしての企画をして、多くの人に、まちの空き家に関心をもってもらえるような企画となりえるか、地域固有の空き家文化祭の開催というブランディングづくりや産官学でのコミュニケーションを実施し、この度の試行エリアである、福良地区において、こういったタイトルのイベントとするべきかを学生と関係者と協議をするなかで進めた。

福良地区へ訪問し、現地をまちあるきのうえ、確認しながらどの地域にこういった空き家があるのかを、空き家文化祭の企画の説明を、地域の人々、地域団体の人々、空き家所有者に対してコミュニケーションをとりながら、協力してもらえる空き家を発掘していく活動をおこなった。

主たるイベント会場には、火災で焼失した木材工場跡の空き地を利用し、地域の空き家と一体として運営することで、空地の利活用も含めた、まち全体の活性化を考え、その所有者に対して、事業企画の具体的協議をおこないながら、大学生と事業プログラムの構築検討をすすめていった。

一般的な文化祭では模擬店の出店等で飲食を提供しているが、本事業においては地域に存する改修済み空き家を活用した既存店舗等と連携し、来場者に当該店舗で飲食していただくことで、地域経済への寄与を図ることを念頭に、地域の改修済み空き家、大学生が利活用を検討する空き家、地域の連携団体が事業において利用検討する空き家と3つの区分で空き家文化祭の会場となりえる空き家を調査した。

写真1 大学生ミーティングの様子



写真2 現地での地域団体等協議の様子



継続して実施したミーティングにおいては、神戸新聞社との連携をすすめながら、地域の首長や地域の事業者、ホテル、商店の方などを巻き込み、公共性の高い文化祭にする手法を協議して進めた。

自治体や地域との連携ワークショップにおいては、実行委員会の組成するための協議や、連携団体として協力いただける団体へのコンタクトなどを継続して協議しながら実施した。

外部の大学生などが入っていった、人通りが少ない空き家エリアで空き家文化祭を行うにあたっては、地域の協力がかせなく、どのようなメンバーで、イベントの実行委員会を組成するかは、大変重要であり、そういった点も、自治体、地域の連携者とコミュニケーションをとりながら取り決める必要があった。そういった協議においても、当初検討したブランディングを維持しながら、空き家とまちづくり問題を自分事として知ってもらう目的とした文化祭企画の在り方を考え、参加者には、当該空き家を利活用したい人なども呼びこめる企画となるよう協議をつづけた。

自治体である南あわじ市との協議の中から、南あわじ市としての「食の街区構想」という今後地域に普及させたい事業意図を、空き家文化祭にまきこんだ企画となるような協議もあわせておこなった。

日程の決定手法なども含め自治体の思惑、地域団体の思惑など、それぞれの思惑を加味しながら、あらゆる団体が、一定の方向にむいていく事業となるよう、当初のブランディングを維持しながら協議することを続けた。

結果として、空き家、空き地の連携事業者の参画をえることができ、以下の表のと通りの企画をとりまとめることとしてすすめていった。

表4 空き家・空き地の利活用提供一覧

	● 空き家・空地提供者	● 連携することとなった産官学による事業参画者
1	旧浦瀬木材 空き地	メイン会場／野外ステージとして活用 ・空き家まちづくりセミナーの開催・地元ダンサーやミュージシャンライブの実施
2	古川家住宅	学生活用提案ブース：歌詞展示、ワークショップ
3	阿部家住宅（宝来湯跡）	学生活用提案ブース：ミニライブ、ワークショップ、カラオケ
4-1	米沢家住宅	学生活用提案ブース：写真展示、ミニライブ
4-2	米沢家住宅	淡路手延素麺組合：そうめんイベント
5	I氏空き地	福良漁業協同組合：しらす丼、てっさいイベント 地域おこし協力隊：物販（橋詰水産、美菜恋来屋）
6	Y家住宅	うずのくに南あわじ：玉ねぎの加工品等の販売等
7-1	N家住宅	兵庫県建築士協会淡路支部：耐震等の建築士相談耐震相談会
7-2	N家住宅	NPO ひょうごヘリテージ機構あわじ：古民家改修パネル展
8	K家住宅	兵庫県宅地建物取引協会淡路支部：物件相談会 南あわじ市都市政策課、ふるさと創生課：空家バンク相談会、移住相談

9	N 家住宅	野水正朔：懐かしの写真展
10	T 家住宅	全国古民家再生協会兵庫県第2支部：大工体験、左官体験、板金体験
11	B 家住宅	吉備国際大学：海洋資源を利用したアクセサリ販売

大学生と連携協議ワークショップでは、運営側として、地域の空き家の特徴や地域のまちづくりに関する情報を集め、大学生がその地域や、空き家の状況を知り、そこでどんな文化祭企画を実施できるかの協議をすすめた。また、空き家問題に関するワークショップを実施し、地域のまちづくり計画との連携も検討し、空き家文化祭で実施するワークショップで発表できる内容についても検討した。

大学生の活動においては、神戸芸工大のKDUまちづくり研究会のメンバーを中心に、福良とは異なる、外部の地域にいる大学生だからこそその視点がいきる企画となるような協議を継続し、地域の魅力の再発見につながる検討を行った。

福良地区の商店街エリアに点在する、大学生が活用する3戸の空き家を選定し、その空き家について、大学生チームが3つの班にわかれ、企画検討をおこなった。

大学生が進めるにあたり、現地の所有者との協議の中から、所有者の安心と信頼の構築のため、対応において、社会人のサポート会社をそれぞれ、松本壮左建築設計事務所、叶eru、アルファクラフトと3社を選定し、不測の事態にそなえた活動を行える体制をつくり協議をすすめた。

担当会社は、それぞれ、現地への訪問、大学生チームとの協議をすすめながら、空き家文化祭での改修活用企画を検討し、実行準備、実行計画の策定をおこなった。

空き家を整備するにあたり、必要な備品を調達のうち、清掃作業などが行えるように計画をすすめた。

図5 大学生による利活用検討の流れ

米沢邸
テーマ：南あわじの昔の写真を展示して、当時の素晴らしさ、懐かしさを感じてもらう

<メンバー>
 神戸芸術工科大学 学生メンバー
 叶eru

<場所>
 米沢邸

<目的>
 地元住民、観光客のみなさんに、昔の写真を見ていただき、当時の素晴らしさ、懐かしさをじっくり味わっていただける憩いの場として、空き家を活用。

<どのように>
 空き家の棚、壁を活用して、写真を展示。
 さらに学生アイデアによる装飾を施し、彩りを添えて、写真をより美しく、綺麗に見せる。
 ゆっくり座り、みなさんと歓談していただける場として、真ん中にベンチを設置
 時には素麺を食べていただき、地元の食材も味わっていただきます。



改装前（内装）





改装前（外観）



改装後（外観）



改装後（内装）

1, 空き家文化祭運動推進と開催準備活動 (④)

空き家文化祭の参加者、出演者募集の広報活動

空き家文化祭開催のための広報集客活動の手法検討 MTG を計 2 回開催し、SNS やホームページの制作について、また、チラシ、ポスター、ロコミなどについて、統一されたブランディングをもって告知ができるよう、手法や制作物等を協議して作成した。

大学生には、利用者側としても、文化祭の出展者を求める活動を行った。これは、兵庫県内や近隣府県の各大学の文化部又は文化サークルの発表の場となるものとして連携を促し、空き家対策という社会問題に対する企画であることも含めて、参加啓蒙を訴えることとした。

対象空き家についての情報整理などを行った後に、メインの集客イベントへの出演者や、音楽フェスなどのイベント参加者をチラシ作成の上、広報により募集をおこなった。作成したホームページを活用し、神戸新聞社の協力もえながら、地元企業などの連携も模索しつつ開催と参画依頼告知を行った。

図 6 地元連携先勧誘チラシ

空き家モデル事業/空き家文化祭	
うずロックフェスティバル 企画概要 (案)	※調整中 16日(土)は前夜祭のみの予定
日時	2024年11月16日(土)、17日(日)の2日間、10時～16時予定
場所	福良地区周辺
事業概要	地域の空き家問題に関心を持ってもらうため、神戸新聞社等と連携し、福良地区内の空き家において、大学生(神戸芸術工科大学)を主体として文化祭的に音楽やワークショップ、飲食などの催しを開催し、市民や観光客を集客。 ※国交省空き家活用モデル事業採択
目的	●空き家を活用した食の街区構想及び福良地区の機運醸成 ●産・学・民(素麺組合、神戸芸術工科大学、神戸新聞社ほか)連携による地域活性化
主催・共催等	うずロック2024実行委員会 (NPO法人淡路国プロジェクト、一般社団法人すまいの未来研究機構、神戸新聞社、南あわじ市、福良町づくり推進協議会等)
担当課	都市政策課(43-5227)、神戸新聞社(080-2456-4798)

図 7 学生用配布チラシ



図 8 音楽と食をアピールしたチラシ (A4 表)



図 9 フェスイメージのチラシ (A4 裏)



2. 地域空き家文化祭実施運営（①②）

地域の各空き家で行われる文化祭（空き家文化祭）運営及び空き家文化祭集客企画（音楽フェスを中心とした注目度をあげる集客イベント）運営を、これまでの協議をふまえた上で実行することを試行した。

表5 実施した空き家文化祭の概要

名 称	うずロック2024 in ふくら
イベントの概要	焼失建物跡地と空き家の一部を連携して分散型のイベント会場を設営し、まち全体をアートや音楽、地場産品提供などで彩り、空き家利活用提案型のイベントを開催した。焼失建物跡の空き地では、地元出身のアーティストや地元のダンスチームによるステージを企画し、スタンプラリー型式で空き家ブースを回遊させるイベントをおこなった。
開催日	2024年11月16日（土）～11月17日（日） 16日は、9時から準備、14時～16時でイベント趣旨を周知するための空き家ワークショップと集客のためのダンスステージを開催した。 17日は、10時～16時で、メインステージで音楽演奏を行い、併せて空き家ブースにおいては、ミニライブや作品展示などのイベントを実施した。
開催場所（会場）	南あわじ市福良の上町、下町、本町全域の空き家（実行委員会運営の3か所と連携協力団体運営の7か所、計10か所）と利活用が未定の焼失建物跡地
イベントの目的	普段は空き家問題に触れることが少ないが、発想力と発信力に長けていると思われる地域内外の若年層（主に大学生）に空き家問題を訴求することで、社会全体の問題意識を喚起し、その効果検証のなかで他地域への展開手法を検討し、また併せて地域内の空き家の掘り起こしの手法の開発を目標とする
イベントなど対象者	福良住民、空き家所有者、地域内外の大学生及び大学関係者、福良に週末遊びに来た観光客、空き家の利活用に関心のある自治体職員、空き家利活用によるまちづくりに興味のある住民、アーティスト、事業者や大学生ボランティア

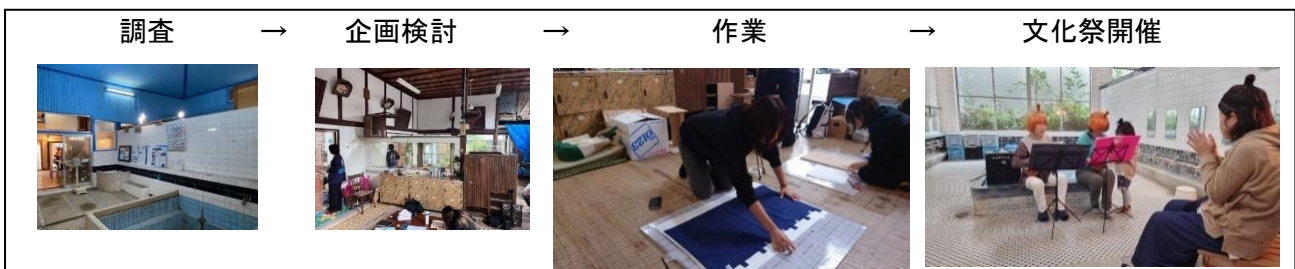
■現地での開催準備活動

日時：11月13日、15日、16日 10時～17時

場所：南あわじ市福良地域の2空き地及び9空き家

提供された空き家・空き地所有者及び文化祭参画する産官学連携者が、ともに清掃、設営の準備を行った。8月～11月までの協議期間において検討した企画を、必要資材などを調達のうち、具体的作業による設営を、9月～11月の事前調査や事前準備をおこなったうえで、11月13日、15日、16日の3日間を中心に空き家を活用して設営作業を行った。

図8 準備の流れの例（阿部邸）



●前夜祭イベント開催

日時： 11月16日 14時～16時 場所： 旧浦瀬木材跡地（メイン会場）

参加者： 一級建築士才本謙二氏、南あわじ市秦課長、準備に関わった神戸芸術工科大学の学生3チームメンバー他

14時～ 空き家ワークショップの実施（空き家ブース担当の大学生チーム及び南あわじ市とのセッション）

15時～ 地元ダンスチームによるダンスパフォーマンスおよび空き家文化祭紹介活動実施

■来場者：100名。3か月間、空き家まちづくり活動の関わった学生と、空き家対応に関わった南あわじ市との意見交換会を実施した。学生からは、「将来はまちづくりに関わる仕事に興味を強くもった」という発表があり、また、南あわじ市からは、「この期間を通じて、市民が、空き家を自分事と自然ととらえて、あらためて対策を考える機会となった」と効果を語った。

写真3 16日の空き家セミナー



写真4 16日のダンスステージイベント



●空き家文化祭（うずロックフェス2024 inふくら）の開催

日時：11月17日 10時～16時

場所：南あわじ市福良地区周辺

■来場者：900名

まちを散策しやすいマップをつけた、回遊を促すパンフレットを配布することで、多くの方に空き家のある街並みを散策してもらうよううながした。食と音楽フェスを含めたイベントプログラムを構成し、空き家問題とはかけ離れたイベントとして参加いただきながらも「空き家問題」に関するイベントであることをステージ上などでも周知しながら実施した。大学生の空き家ブース以外でも連携先との空き家イベントなども実施し、南あわじ市が行う、食の街区構想の機運醸成プロジェクトにあわせて、多くの来場者に、空き家とまちなみを自分事、地域事として感じてもらう企画を試行した。

写真5 17日の空き家相談ブース



写真6 17日の来場者のコメントボード

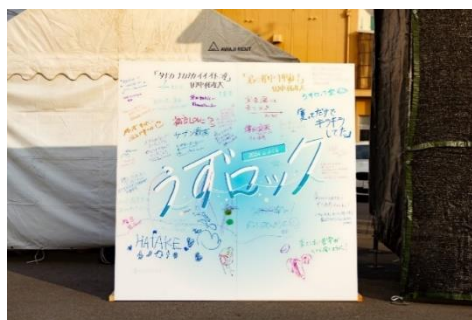


図9 来場者に配布したまちあるきマップ (A3折中面)

図10 来場者に配布したステージイベントのプログラムとSNS誘致チラシ (A3折外面)

時間	内容
10:00 ~	オープニング/主催挨拶
10:10 ~ 10:45	ガチ恋リアル
10:50 ~ 11:20	ヒノエ ショウエイ
11:25 ~ 12:15	田中 佑生大
12:25 ~ 13:05	ochanoma
13:10 ~ 14:00	ROMEO NOVEMBER
14:05 ~ 14:55	ナンカノユメ
15:00 ~ 16:00	HATAKE
16:00 ~	エンディング

3 大学生実施の空き家文化祭の効果発表会の開催

まちづくりセミナーとして、効果発表会を令和7年2月9日に実施した。

兵庫県内の自治体を対象に、開催した効果を南あわじ市、参加大学生と検証し発表した。そのうえで、地域特性を生かした空き家文化祭活動の啓蒙について神戸新聞紙を通じ兵庫県下に広報した。

図11 実施概要チラシ

学生と連携した空き家活用で賑わい創出!
令和6年度
まちづくりセミナー
開催のお知らせ
参加費 無料
2025年2月9日 sun
13:00 ▶ 16:30
会場 120 WORK PLACE KOBE
 神戸市中央区磯上通4-1-14 三宮スカイビル 7F

【はじめに—空き家を活用したまちづくりや・賑わいづくり。】
 令和6年度のメイン事業として、実行委員会と神戸芸術工科大学の学生、南あわじ市の産業学連携で4件の空き家を使った地域の食と音楽のイベント「うずろックin福良」を実施しました。市内で空き家活用推進の推進地として「食の街区構想」に空き家活用をけん引させた事業の報告を行います。また令和6年度の活動として、明石市材木町「旧船町の家」での関西大学生の学生による資料整理活動、大阪公立大学の学生による明石市在住の江戸末期の古民家の活用提案を報告します。
 併せて兵庫県から「空き家活用特区制度」の空き家問題の支援について、タガヤスが取り組む空き家プロジェクトとご紹介します。今後増大する空き家を地域課題として捉え、地域に合った取組みの実現に努めますので、奮ってご参加ください!

(タイムテーブル)
 13:00 オープニング 14:05 「明石旧船町の家」の保存・活用に向けて
 13:05 実行委員会一般職員 才本 龍二 家と町が持つ歴史・文化の「賑わい」の発見と賑わいの創出
 13:15 空き家の活用について 14:05 明石市「食の街区構想」に空き家活用について
 神戸芸術工科大学の学生 大阪公立大学 立見 登志子 学生
 13:45 自治体より「うずろック」成果 15:30 兵庫県空き家活用特区制度について
 南あわじ市役所産業推進課 課長 齋 15:40 質疑・ネットワーキング

お申込み・お問合せ
 WEBからお申込みいただけます。締め切り2月8日まで。
空き家ワイワイ実行委員会 WEBでお申込みはこちら
 問合せ先 住まいの政策研究機構 info@sumai.or.jp

■場所：120 ワークプレイス神戸 13時～17時

■参加者：合計約50人

セミナー当日は、まずは、ブランディングを統括したNewfuzzの高橋社長に企画の概要を説明してもらい、その後、制作した映像公開とともに、事業について報告した。

空き家文化祭に参加した大学生には、利活用をおこなった3つの空き家ブースについて、調査から実施、その結果としての所有者との関係性などについての効果発表を、兵庫県、市町の担当者向けに実施した。

民間から、明石の漁協の組合長、篠山の団体役員、ヘリテージの建築士、WEB制作会社社長、設計事務所などまちづくりに興味のある事業者が参加した。官公庁からは、兵庫県、南あわじ市、明石市、神戸市の住宅政策担当者が参加した。神戸芸工大、関西大学、大阪公立大学の教授や学生が参加し意見交換をおこなった。

■2月21日に神戸新聞朝刊紙面での記事を掲載

空き家文化祭について、また、2月9日にセミナーの様子について神戸新聞に掲載し、南あわじ市長にも、空き家をつかったイベントによるまちの活性効果について寄稿をいただいた。

図12 神戸新聞朝刊 全兵庫県下版に掲載：5段記事(392,151部、2023年4月ABC部数)

空き家活用し地域活性化
 学生らのプロジェクト神戸で報告会
 報告会には、空き家ワイワイ実行委員会と神戸市、南あわじ市、明石市、神戸市の関係者が参加し、空き家活用推進の推進地として「食の街区構想」に空き家活用をけん引させた事業の報告を行いました。また、令和6年度の活動として、明石市材木町「旧船町の家」での関西大学生の学生による資料整理活動、大阪公立大学の学生による明石市在住の江戸末期の古民家の活用提案を報告します。
 併せて兵庫県から「空き家活用特区制度」の空き家問題の支援について、タガヤスが取り組む空き家プロジェクトとご紹介します。今後増大する空き家を地域課題として捉え、地域に合った取組みの実現に努めますので、奮ってご参加ください!

戦時中の回覧文書など調査
 神戸市材木町の「旧船町の家」で見つかった「菓子購入関係書類」が、当時の物資供給と町内運営が分かる

芸術家交流のアイデア提案
 空き家ワイワイ実行委員会と神戸市、南あわじ市、明石市、神戸市の関係者が参加し、空き家活用推進の推進地として「食の街区構想」に空き家活用をけん引させた事業の報告を行いました。また、令和6年度の活動として、明石市材木町「旧船町の家」での関西大学生の学生による資料整理活動、大阪公立大学の学生による明石市在住の江戸末期の古民家の活用提案を報告します。
 併せて兵庫県から「空き家活用特区制度」の空き家問題の支援について、タガヤスが取り組む空き家プロジェクトとご紹介します。今後増大する空き家を地域課題として捉え、地域に合った取組みの実現に努めますので、奮ってご参加ください!

可能性見いだす機会に
 南あわじ市の課題の一つが「空き家対策」。市のなかで最も空き家の多い地区が福良地区である。要因の一つは、南海トラフ地震に伴う津波被害の懸念であったが、2024年11月、両口防波堤の完成で、浸水被害の心配がなくなった。

3, 空き家文化祭運動のモデル化検討

①委員会開催による空き家文化祭モデル化を検討

日時：2024年8月～2025年2月までに計11回の委員会MTGを開催

開催場所：福良商店街／南あわじ市役所（3回実施）、神戸駅前ATビル、明石市役所、兵庫県庁

実施事項：地域の空き家文化祭実施運営マニュアルの作成のため、考え方整理や作成準備のため実施した検討会、明石市や兵庫県との協議をふまえ、取りまとめたのち、2月28日に運営マニュアルをWEBに掲載した。

WEBアドレス：<https://www.sumaiken.jp/uzurock/news/20250225.html>

図13 空き家文化祭の
ススめ



3, 空き家文化祭運動のモデル化検討

②事業告知／募集／認知度向上のためのWEBサイト構築作業

空き家文化祭の開催準備状況や、それにかかわる大学生の活動状況を情報提供できるWEBサイトを新設した。そのサイトで、空き家問題の啓発活動としてブランディングしていくことで、空き家文化祭の実行における参加者や、その企画を支援してもらう地域企業の皆様、また、その文化祭に遊びにきてもらう一般の方（地域の方、また、その他の地域の方）に情報提供できるプラットフォームとし、今回の空き家啓蒙活動を継続的に広報PRするための、リタワークス(株)と連携しサイトを構築した。

こちらのサイトで、自治体連携、大学生参加希望者連携、空き家所有者連携等ができる窓口をつくり、将来的には、地域貢献を希望する企業連携も行えるプラットフォームとした。

図14 空き家文化祭 公開ホームページ



WEBアドレス：<https://www.sumaiken.jp/uzurock/index.html>

3. 空き家文化祭運動のモデル化検討

3 空き家文化祭運営モデル啓蒙用の広報映像製作

8月から継続した準備や作業、設営などに、映像制作の専門家である(株)Newfuzzにかかわっていただき、随時写真撮影や動画撮影をおこなって、コンテンツを収集した。

結果、3分20秒の空き家文化祭運動のブランディングされたイメージが伝わる動画を作成し、2月9日に開催したまちづくりセミナーで公表した。

映像化においては、地域の人々にもインタビューを行い、約3か月のかかわりをふまえた上でのスムーズなインタビューから動画作成を行うことができた。空き家文化祭の準備から大学生が関わることを映像化して、多くの市町村でも、同様の空き家まちづくり活動を啓蒙しやすいように、他市町に配布できる映像を製作した。そのため、2月21日の神戸新聞の記事にもQRコードを掲載し、再生をうながした。

図15 広報動画映像イメージ



図16 神戸新聞記事に、動画QRコードを掲載



(3) 成果

1. 産官学連携の統一ブランディング事業としてのとりまとめを実施

産官学や協力団体の思惑はことなるが、イベント名等を、地域の方々との MTG の中から検討しうずロック 2024 実行委員会を組むことで、空き家問題において、ポップで若者受けするブランディングをつくることができた。ブランディングを行うことで、ホームページ、チラシ、音楽の趣向、空き家改修のデザイン検討の方向性をあわせることができ、実行委員会として、統一感のある空き家文化祭を行うことができた。また、その経緯を空き家文化祭マニュアルに反映することができた。

2. 南あわじ市福良地区にて空き家を 9 件、空き地を 2 件、空き家文化祭において活用し事業を実施することができ、南あわじ市福良地区で空き家を 3 戸、大学生による活用提案を発表した。

(表 4 を参照) 空き家文化祭の試行において、2 日間で約 1000 名の来場者に啓蒙実施を行うことができた。また、来場者アンケート(41名)から以下のことがわかった。

質問：一番興味をもったイベントは何ですか。

回答：51%が、大学生の空き家活用ブースに興味をもったと回答した。また、ステージイベントにも、46%が興味をもっており、空き家とステージが連動して興味を引き付けることがわかった。

質問：使いたい、活用した空き家はありますか。

回答：70%が、是非使いたい、できれば使いたい、と回答しており、まったく使われていなかった空き家においても、足を踏み入れるだけでイメージが大きくかわることがわかった。

質問：あなたのまちなかの空き家はありますか。

回答：65%が、たくさんの空き家がある、少し空き家がある、と回答しており、音楽フェスという、一見空き家と関係のないイベントにおもえても、空き家について考える機会を多くの来場者がもっていることがわかった。

3. 空き家文化祭ホームページの試行例として、うずロック 2024 in ふくらを題材にホームページを作成した。そのホームページでは、ボランティアを募集し、大学生ボランティアを新規で 3 名募集できた。また、ホームページと連動して、大学生に SNS の発信を促すことで、タイムリーに、出演者の情報や、出展者の情報を提供するプラットフォームとなった。また、アンケートの取得においてもホームページからスムーズに誘導ができた。(図 14 を参照)

4. 空き家文化祭 普及啓蒙映像の作成し提供することができた。(図 15 を参照)

5. 空き家文化祭の普及運営マニュアルの作成 (PDF 版)

地域をまきこんだ空き家文化祭実施運営マニュアルのとりまとめ、大学生および自治体向けに、空き家文化祭参加募集手法なども含め運営ポイントをまとめることができた(図 13 参照) 準備段階からの協議検討をふまえ、空き家文化祭の普及運営マニュアルをとりこめることをおこなった。最終計 20 ページの「空き家文化祭のススメ～実施運営マニュアル」作成し公開できた。

6. 成果発表会を行い神戸新聞にて掲載した意見広告(2025年2月21日全県下)を行った。空き家文化祭と大学生が空き家にかかわる意義について、空き家文化祭のモデル運営における研究について成果発表会を行い、それを神戸新聞記事取りまとめることができた。神戸新聞記事を兵庫県内に発信し、多くの方の目に触れるような動きができた。(図 12 参照)

3. 評価と課題

1. 産官学連携の統一ブランディング事業としてのとりまとめを実施

●評価

産官学連携とブランディングについては、非常に効果があった普通では対応してくれないような住民所有者ではあったが、それぞれの立場がうまく絡み合うことで協力してもらいやすい話し方ができるようになった専門家がはいり、うずロック 2024 実行委員会を立ち上げることで、その役割が明確になり、産官学連携のブランディングをしやすい組織体制がつけられた。

やり始めると、いろんな、商売の方が必要におうじて参画しようというお声もいただいたが、すべての企画を空き家×音楽フェス×食とつなげることに限定することで、あまり、空き家が表にでず、楽しくあそべるイベントという形で集客機運醸成という南あわじ市の考え方も、うまく取り込むことができたことも、こういった取り組みをした結果であり、主導をあくまでも、実行委員会が行うという立ち位置であることが、新規の事業として地域にスタートしやすいという効果がみられた。主体となるのは、本当に既存組織では、ハードルが高いものということがわかった。

●課題

実施後もぜひ参加したかったという関係者が出てくるが多かったので、準備には長期間が必要であると実感した。イベントでの集客が主な目的のイベントではなく、地域の数多い産官学の関係者がひとまとまりになって、空き家のあるまちを「自分事」「自らの地域事」とするために時間をかけた地元を根を下ろした活動が必要であると実感した。

2. 南あわじ市福良地区にて空き家を9件、空き地を2件、空き家文化祭において活用し事業を実施することができ、空き家を3件大学生による活用提案を実施した。発表・空き家文化祭の試行において、2日間で約1000名の来場者に啓蒙実施

●評価

結果として、地元の所有者が、これほど多く協力してもらえとは考えてなかった。空き家は、自らの所有物件であまり、他人の意図がはいることはないという認識であるが、公共的な企画について、産官学連携で取り組むことで、所有者の意識変化に大きな影響があることにより強く確信した。また、地元ではない、外部の大学生が、具体的に空き家所有者と関わりながら空き家文化祭に向けて取り組む企画が、高齢化している放置空き家の所有者には今後の活用について考える、「心地よい引き金」になることがわかった。

●課題

空き家文化祭開催後において、対象となった9件のうち、2件の空き家の利活用相談が発生しておりその対応が課題となっている。また、来年はいつやるのか、といった問い合わせもあり、空き家文化祭による継続的な掘り起こし、そして、掘り起こされ、顕在化した空き家についての利活用対応も、継続的に取り組む必要がある。

3. 空き家文化祭のホームページ制作および映像制作

●評価

空き家文化祭のホームページは、当初の参加アーティストの募集、運営ボランティアの募集、参加団体の募集といった、開始段階から始めることができたことに意義があった。目的が、イベント来場を目的とせず、空き家文化祭企画の流れを発信するということが空き家対策の意識醸成につながるという意

味でツールとしては効果的であった。実際の空き家文化祭の開催においても、空き家文化祭のタイムスケジュールの掲載や、参加アーティストや参加連携ブースの皆さんとの SNS 連動において、集客効果を高めるプラットフォームとなっていた。最終、アンケート収集においても効果的な運用ができ、一連の流れが、空き家文化祭を、今後他地域で行う場合の、試行見本として今後も確認できるものとして活用できることがわかった。また、WEB サイトには、制作映像を掲載することで実際の活きた活動や所有者の感想なども今後も永続的に伝えることができるようになった。実施したまちづくりセミナーにおいて、参加者にまずは映像を提供することで、空き家文化祭という新たなパッケージ事業についてスムーズに理解ができるツールとなっていることが確認できた。神戸新聞にQRコードを掲載する手法など、今後も、デジタルツール、アナログツールのどちらからでも空き家文化祭モデルの拡散に役にたつことがわかった。

●課題

特にWEBサイトにおいて、今後、空き家文化祭に関する情報更新や、他地域で行う場合にこのWEBサイトをベースに改修することがもとめられてくる。他地域の官庁の空き家担当者の方に説明した際にいただく質問などを掲載していくことで、よりわかりやすい、空き家文化祭情報提供サイトに上げていくことができるが、その運用を継続していかなければならない。また、制作した映像をいかに多くの人にみてもらうかを、ホームページやSNSを連動して拡散することに今後注力が必要となる。

4. 空き家文化祭の普及運営マニュアルの作成 (PDF 版) 及び成果発表まちづくりセミナーの実施

●評価

空き家文化祭という運動をワードとして普及させるために、その活動の目的や一連の進め方を、事例写真や事例ポスターなどを含めてマニュアル化できたことは大きな成果である。机上の空論のイメージをマニュアル化するのではなく、実体験にもとづくマニュアルをつくりあげたことで、そのマニュアルと当方の経験をセットで説明することで、より意義や効果を伝えやすいように活用できると確信している。

2月9日に実施したまちづくりセミナーでは、神戸芸工大の学生が4か月間活動した成果を発表したが、市町担当者、まちづくり事業関係者などが驚くほど、地元の人々との関係を築きながら活動してきたことが理解された。空き家対策がハードの問題ではなく、現状を打破する若者の力による新たな発想が、高齢者の考えを動かす、ということ、臨場感のある体験話にそって聞く場をつくることがいかに重要であるかを思い知らされた。

●課題

今回、神戸新聞を活用し、兵庫県下に「空き家文化祭」という、耳慣れない単語を広報してはいるものの、まだまだ、イメージが膨らみにくく、「空き家文化祭」とは何か、を個々別々に説明する機会をもたなければならない。兵庫県下の自治体に興味をもってもらうように、継続した空き家文化祭の開催とあらたな場所での空き家文化祭の開催、そして、その発信をしながらマニュアルのアップデートをしていくことが課題となっている。

また、まちづくりセミナーには、多くの市町のまちづくり担当者に来ていただいたが、自らの担当は縦割りであり、住宅というハードの解決と、まちづくりノコミュニティづくりというソフトの解決を両方自らの担当として把握するポジションにある人がなかなかいないのが現実と感じる。産官学連携による空き家文化祭を行うにあたり、南あわじ市のようにトップダウンでの事業構築は理解できるが、各市町からのボトムアップでのこういったまちづくりセミナーの開催はむずかしいとの懸念があり、どのように各市町と連携を深めることができるか更に検討が必要である。

4. 今後の展開

兵庫県内の各市町との連携をとって、「空き家文化祭」事業の開催を進めていく。そのための手法として、1) 各市町への説明／予算計上依頼、2) 運営地域での組織づくりと協賛会社募集、3) 空き家文化祭の実行継続となる。具体的な展開としては、まちづくり支援団体である、すまいの未来研究機構と連携し、以下をすすめていきたい。

図 17 「空き家文化祭」のススメ 運営イメージ図

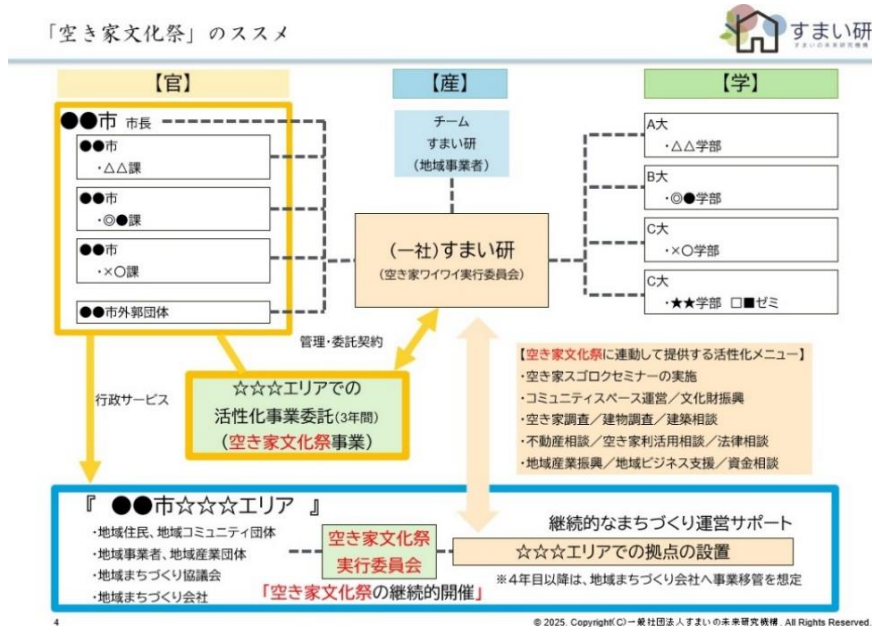


表 6 継続した空き家文化祭の実施活動イメージ

対象地域	実施内容	R7	R8	R9	R10	R11
南あわじ市 福良地区	運営拠点検討協議 協賛会社連携検討 まちづくり会社との連携	[Progress bars]				
	空き家文化祭の実施	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回
明石市 旧船町エリア	活動方針協議 エリア検討 予算検討	[Progress bars]				
	運営拠点検討協議 協賛会社連携検討 地域まちづくり会社との連携	[Progress bars]				
	空き家文化祭の実施	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
県内市町①	活動方針協議 エリア検討 予算検討	[Progress bars]				
	空き家文化祭の実施	[Progress bars]				
県内市町②	活動方針協議 エリア検討 予算検討	[Progress bars]				
	空き家文化祭の実施	[Progress bars]				
県内市町③	活動方針協議 エリア検討	[Progress bars]				
	空き家文化祭の実施	[Progress bars]				

■ 団体概要・担当者名		
設立時期	令和6年5月1日	
代表者名	空き家ワイワイ実行委員会 会長 谷 弘一	
連絡先担当者名	一般社団法人すまいの未来研究機構 谷 弘一	
連絡先	住所	〒651-2113 神戸市西区伊川谷町有瀬 1456-3
	電話	078-974-1737
	メール	info@sumaiken.jp
ホームページ	https://www.sumaiken.jp/index.html	
	https://www.sumaiken.jp/uzurock/index.html	

※事業に関してご質問等がある場合は、上記連絡先にご連絡ください。